

「可能性」を「実現」に変えるために

総務省総合通信基盤局
電波部電波政策課周波数調整官

平松 寛代

経歴

平成12年 4月 郵政省採用
平成12年 7月 同 郵政局企画課
平成13年 1月 総務省郵政企画管理局郵便企画課
平成14年 7月 コーネル大学大学院
平成16年 7月 総務省大臣官房企画課係長
平成17年 8月 同 総合通信基盤局消費者行政課課長補佐
平成19年 7月 財務省大臣官房政策金融課課長補佐
平成21年 7月 現職

プロジェクト紹介 限られた資源、「電波」から最大限の効果を引き出す方策

新たな電波利用システムやサービスが進展していく中で、地域コミュニティの情報発信手段などに電波を活用することで、地域再生など諸問題の解決を図っていくことが期待されています。一方、電波は有限希少な資源であることから、これを国民の利便性向上につなげるためには、新たな電波の有効利用を促進することが必要です。また、このような電波の有効利用は新たな産業と雇用を生み出し、内需主導型の経済成長の実現にも寄与していくものと考えられます。これらの観点に立ち、新たな電波の有効利用の方向性を検討するための「新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム」が発足されたところであり、その事務局として、内外調整を行っています。

また、2010年代には技術革新の下、国民の利便性向上に寄与する新たな電波利用システムの実現が期待されており、その実現に向けた電波政策の方向付けを行っています。



■マニアックな「情報通信」?

「情報通信」というと、非常に専門的な言語が飛び交っていて一般人にはよくわからない、国民生活にどうつながるのか理解しにくい、というマニアックなイメージを持っている方が多いのではないかと思います。

私が官庁訪問をしたのはもう11年前となりますが、その当時の私自身、インターネットの住所のようなIPアドレスといった概念の存在や、電波にはいろいろな周波数帯があることなど全く知らない状態で、自分は専門的な知識は皆無であるがやっていけるだろうか、と面接の場で質問したことを記憶しています。今から振り返ると、自身が採用されるための面接で、よくこのような無邪気な質問ができたものだと思うのですが、面接者の方は温かく、知識は仕事をしていく中で身につければ大丈夫、問題はやる気、と答えてくださったことを覚えています。

実際に入省してみて、当初は不安もありましたが、周りの方々や文献から知識を蓄積し、自分の言葉でそれを理解するとともに、それに基づいて政策の方向性を模索する作業を繰り返す中で、自身が情報通信政策の中核の一翼を担っていると実感できるほどまでになりました。

また、マニアックと思われた「情報通信」分野も、携帯電話やインターネット、テレビやラジオ放送など日常生活に密接したサービスを扱っており、だからこそ、仕事にも大きなやりがいを感じています。また、情報通信産業は国内総生産の成長率の4割を占める重要な産業であり、情報通信政策の果たす役割の大きさを日々噛み締めているところです。

■幅広い可能性を秘めた「電波」

私の現在の仕事は、限られた資源である「電波」について、会議等を主催し、その議論を踏まえ、各課の企画立案をリードすることにより、電波の有効利用に向けた政策の方向付けを行うという、いわば電波政策のコー

ディネーター的な存在です。

従来からテレビや携帯電話などに使われてきた電波ですが、昨今、AV機器やゲーム機などのデジタル家電のワイヤレス接続が増加し、携帯電話等においても音楽等の様々なコンテンツが利用され、その利用方法はますます発展しています。さらに今後は、在宅患者の健康状態をリモート測定できるような医療環境の実現や、リアルタイムの渋滞情報の提供による環境負荷の低減といった、新たな電波の利用分野の開拓も期待されており、ますます電波需要の増大が予想されます。

このような幅広い可能性を秘めた電波の利用を促進し、国民生活の利便性向上に資するためには、限られた電波を効率的に利用することが重要です。そのため、総務省では、現行の制度の下で利用されている電波の中で他にも使える部分はないか、その部分を使うためには既存の利用者との関係でどのような課題があるか、また、技術開発の進展に伴って克服できる課題はあるのか、という新たな観点からの検討を行う会議を開催しており、私はその事務局として、日々、内外関係者との調整や資料作成等に奔走しているところです。

このように、総務省の仕事は、常に身近な生活環境を意識し、その変化に応じて対応し続けていかなければなりません。総務省の仕事が変革していく過程の中で、自分自身も柔軟な思考や斬新な視点を持つことが要求されます。常に国民目線を意識しつつ、政策の最前線に立ち、何かを成し遂げたい、という気概を持って、皆さんと一緒に仕事ができればと思っています。

Schedule 1日のスケジュール



9:30

登庁

メールチェック、新聞情報のチェック。

10:00

打ち合わせ

実社会にマッチした政策提言を行うためには、事業者の方から今後の技術・サービス動向などについて情報を得ることも重要。今日は、事業者が取り組んでいる実証実験について概要・課題などの説明を受ける。

12:00

昼食

業務から解放され、一時の気分転換を堪能。

13:00

資料作成など

今月予定されている会議の資料準備や先月行ったパブリックコメントに対する回答書の作成などに奔走。

15:00

会合出席

ワイヤレス家電など将来期待される電波利用システムの実現に向けて必要な研究開発や検討課題などについて、大学などの研究機関の方々や事業者などと意見交換。

17:00

打ち合わせ

上司が空いた隙を見計らって、自分が抱えている案件の説明に入る。忙しい上司は時間が取れないため、自分の作業状況を見極めつつ、頭の中で常に細切れの予定を組むことが肝要。

18:00以降

無駄な残業を減らすべく、メリハリをつけて作業。

